

〔論文〕

3 拍子の指導についての一考察

江 田 司

名古屋学院大学スポーツ健康学部

要 旨

本研究は、音楽科授業の指導改善を目指して、第2学年「拍のまとまりを感じ取る」題材での3拍子の指導に関連して、歌唱・器楽教材《かつこう》(小林純一作詞、ドイツ民謡)に潜む興味ある事実を、曲の旋律及び日本語訳詞、原曲ドイツ語の歌詞、またドイツ語によるシューベルトやモーツァルトの作品等と比較しながら分析・考察する。結論においては、日本語訳詞を伴った外国曲の旋律は拍子感と必ずしも一致しないことから、器楽指導において留意する点、さらに従前の音数律による歌唱方法に加え文節に着目した歌唱指導を提案するものである。本稿では、①《かつこう》の教科書題材における位置づけ、旋律と歌詞(日本語、ドイツ語など)との比較、②2008年12月から2009年2月に行われた国立教育政策研究所教育課程研究センターの全国調査「特定の課題に関する調査(音楽)」から、3拍子に対する小学校6年生児童の受け入れの傾向及び調査で扱われた曲の分析、③Schubert や Mozart の楽曲から歌詞のアクセントと拍子の強拍とは必ずしも一致しない特徴的な例を紹介する。さらに《ふるさと》など3拍子関連の共通教材を通して、日本語の語感を生かした歌唱表現と拍感を生かした伴奏が相まって効果を生む方法について可能性を探る。

キーワード：3拍子、かつこう、音数律、文節、歌唱

Melody and Triple Meter in Japanese Songs

Tsukasa EDA

Faculty of Health and Sports
Nagoya Gakuin University

発行日 2018年2月28日

1. 本研究の目的

3拍子の《かつこう》をドイツ語歌詞で聴く。3拍子「強・弱・弱」と言葉のアクセントは、強拍のところですべて一致している。ところが、日本語訳詞では拍子と言葉のアクセントは必ずしも一致しない。《かつこう》に限ったことではない。一定間隔に強拍を伴う拍子の厳格さに、ほぼすべての日本語の歌は対応できないで来たのである。むしろ、この話題は避けられてきたと言える。

本研究では、歌唱曲における拍子感は「伴奏」を感じ取ることから醸成されるものとして捉え、歌詞の言葉のリズム(音数律)には拍子感に彩りを添える働きがあることを明らかにしたい。シューベルトやモーツァルトの作品例では、言葉のアクセントを強拍から規則的、あるいは不規則的にずらして歌に躍動感を与えている。この先人たちが示したヒントをもとに、歌唱共通教材を例に、音数律から一步進めた文節への着目の可能性を探りたい。拍子感と相まって歌に新たな躍動感を与えることを期待して。

2. 小学校で学ぶ3拍子

小学校学習指導要領における3拍子(記号: 3/4)の扱いは、37種類の音符、休符、記号や音楽に関わる用語とともに「音楽活動を通して理解」¹し、指導する学年については、「児

童の学習状況を考慮」²することが求められている。つまり、表現及び鑑賞の活動によって3拍子の働きや名称を理解し、小学校6年間のいずれかで必ず習得すべきものとされている。また、現行指導要領では、拍子に関する記述はなく「拍の流れ」についての定義³のみが書かれている。

一方、国立教育政策研究所が小学校6年生を対象に2008年～2009年にかけて行った全国的規模での調査⁴では、3/4拍子の旋律聴取に正答した児童は全体の約7割であった。詳しくはのちに譜例と共に分析・考察する。

3. 教材《かつこう》をめぐる

拍子記号と共に扱う3/4拍子と2/4拍子は、音楽科教科書2社のうち1社が2年生、もう1社は4年生に登場している。

しかしながら、《かつこう》(日本語詞: 小林純一/ドイツ民謡)は、3/4拍子を感じ取る歌唱・器楽教材としていずれの教科書にも2年生で登場している。厳密には「拍のまとまりを感じる」題材で扱われ、次の題材の「リズムを打つ」など、具体的に3/4拍子を理解する教材としては扱われていない。

《かつこう》の教材性は、①低学年の子供が親しみやすい短い12小節の曲であること。②歌詞が、かつこう鳥の鳴き声を森の静けさの

¹ 各学年の〔共通事項〕イの「音符、休符、記号や音楽に関わる用語」文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説音楽編』p. 18-19

² 同、p. 93

³ 同、p. 33, 「音楽の拍が一定の時間的間隔をもって刻まれたり、間隔に伸び縮が生じたりすることを指す。こうした拍の流れを感じ取りながら音楽に合わせて歌ったり、演奏したり、拍の流れの伸び縮みによって生まれる音楽の微妙な変化に気付きながら音楽を聴いたりすることが求められている。」一方、平成29年(2017)

次期『学習指導要領解説音楽編』p. 123では「拍の流れ」が「拍」と変更され、拍子についても「いくつかの拍が一のアクセントのパターンによって繰り返される拍子のある音楽」と言及されている。

⁴ 《用語や記号などに関する問題》『特定の課題に関する調査(音楽)』全国の国公立小学校から無作為抽出、小学校: 約110校約3000人を対象に行われた。音楽科では42年ぶりの全国的な学力調査。筆者は調査問題作成、結果分析委員会委員としてかかわった。

3 拍子の指導についての一考察

中で聴き取った子供が母親に呼びかける様子などが低学年の子供たちに喜ばれるであろうこと。③ド～ソ：5音の狭い音域で構成され、鍵盤学習の初期に適していること。④4小節ごと各段の最初がそれぞれ3拍子の違うリズムで構成されていて、3拍子の雰囲気を感じ取るのに適していること、等々が考えられる。

4. 《かつこう》は2拍子!?

ある小学校での2年生の公開授業、興味深い場面に出会った。歌いながらさまざまに体を動かして2拍子と3拍子のまとまりを感じ取っていくのだが、授業終盤、初めて聴いた《かつこう》にふさわしい体の動きを考えていた時のことである。男子2人が両手をつないだり、手と手でタッチしたりしたあと、「この曲は2拍子!」と言ったのである。

思わぬ発言におどろいた教師は、歌いながらももう一度彼らの動きを皆で見ることにした。

「かつこう（ポン）かつこう（ポン）

しずかに（ポーン）」

（ポン）（ポーン）はタッチである。

彼らは身振りを伴いながら説明した。

「かつ | こう | 間 | かつ | こう | 間 | し | ず | か | に | ー | 間」～

のように、言葉を2拍子に、手と手で打ち合わせる動作の4分休符を日本的な「間」と感じているようであった。「間」は拍子には含まれない⁵。

このあと教師の指示「前奏や伴奏を聴くように」があり、子供たちは3拍子のまとまりを

歌詞からではなく楽器の音から判断するに至った。

5. 《かつこう》と《Kuckuck》

図1は、1番の歌詞であるが、「しずかにー」「よんでーよ」「かあさんー」のアンダーライン3ヶ所は、いずれも格助詞や補助動詞、名詞の語尾であり「①23」の強拍としては機能していない。歌唱表現上日本語の歌詞では、拍子によって分割される「縦線ははずして考える」ことは、従来、演奏家・研究者からは定説とされている⁶。

日本語の歌詞が「に」「よ」「（かあさ）ん」など、言葉の一部分であったのに対し、図2で、同じ部分を見るとドイツ語の歌詞では、



図1 《かつこう》の日本語歌詞

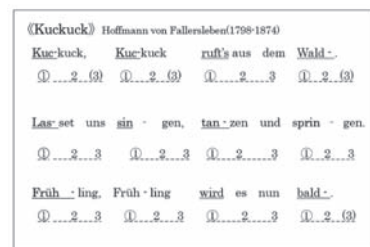


図2 《Kuckuck》ドイツ語歌詞

⁵ 応援などで使われる手拍子の一つに「三々七拍子」がある。ここにも「間」があり、西洋的な拍子感覚では、「3・3・7」に1つつ4分休符が入り、「4・4・8」拍子となる。

⁶ 比較的新しい例では、大賀寛(2003)『美しい日本語を歌う』p. 56 がある。具体的な歌曲に例に、歌唱法にまで詳しく言及している。

『かつこう』（独語題:Kuckuck, 英語題:The Cuckoo）
 ♩=112~120 小節番号:1 2 3 4

かつ こう かつ こう し ず か に

独語: Kuc - kuck Kuc - kuck, ruft's aus dem Wald.
 英語: Cuc - koo, Cuc - koo, wel - come thy song!

5 6 7 8

よ ん で る よ み ず の な か

Las - set uns sin - gen, tan - zen und Sprin - gen.
 Win - ter Is go - ing, Soft bree - zes blow - ing,

9 10 11 12

ほう ら ほう ら か あ さ ん

Fruh ling, Fruh ling, wird es nun bald.
 Spring time, spring time, soon will be here.

図3 《かつこう》の譜例(日本語, ドイツ語, 英語の歌詞)

(Wald, singen, bald)などすべて意味のある単語(訳: 森, 歌う, 間もなく)が置かれている。結果として全小節に「① 2 3」の強拍「①」が厳格に存在するのである。

《かつこう》を器乐的に扱う場合, ドイツ語歌詞的に捉えれば厳格に3拍子の強拍「① 2 3」を生かして演奏することは当然とされよう。鑑賞の活動において, ドイツ語歌詞の原曲を聴取するならば, 歌そのものから3拍子の感覚を味わわせることもできる⁷。ただし, 日本語の語感を大切にしたい器楽表現を目指すならば, あえて縦線を外した演奏法を考えなければならない。この点は現場において意識されることが重要である。

図3(譜例)では, 英語の歌詞を加えた。[song, going, here]など, ドイツ語同様, 厳格に3拍子が成立していることが分かる。

原曲の外国語を訳した曲は, 少なからず伴奏

と歌詞を伴う旋律との強拍位置の二重性が見られる。伴奏は3拍子を形成しているのに対し, 旋律は歌詞の制約があつて必ずしも3拍子を形成していないのである。このような例は『エーデルワイス』など3拍子の曲に限らず, 『ちょうちょう』『ぶんぶんぶん』『ドレミの歌』等々の愛唱歌でも見られる。

6. 「3拍子」習得結果, 約7割の6年生

図4 「拍子の調査問題」

図4は, 「調査問題」の楽譜である⁸。

調査出題の趣旨は, 「音楽を聴き, 要素を聴き取っているかを把握する」ためである。出題のねらいは「拍子を聴き取っているかを問

⁷ 「ドイツ語と音楽」 T.G. ゲオルギアーデス/木村敏訳『音楽と言葉』(1994)pp. 106-124

⁸ 調査問題の概要(国立教育政策研究所教育

課程研究センター)『平成20年度特定の課題に関する調査 調査票及び解答類型(小学校)音楽』pp. 18-19, p. 23

3 拍子の指導についての一考察

う」もので、出題内容は「音楽を聴き、拍子を選択」する。「オーボエとピアノで演奏された楽曲を聴き、4分の2拍子、4分の3拍子、4分の4拍子から正しいものを選択する問題」である。旋律及び伴奏は創作されたもので子供たちには全く初めての問題である。また出題にはDVDビデオが使われ、子供が興味を持って取り組めるように配慮されている。ただし演奏は音源のみで、2回聴いて判断することが求められている⁹。

「音楽の長調・短調を選択する問題では、3曲すべて正しく選択した児童が約3割であった」結果に比べると「音楽を聴き、拍子(3拍子)を正しく選択した児童が約7割(65.5%)」であることは一定の評価が与えられる。しかしながら、演奏が器楽曲であり、伴奏ははっきりとした「① 2 3」のリズムを刻んでいるところから、前述のような日本語歌詞を扱った際に起

こる混乱はなかったと言える。また調査問題の旋律は、前半はヘミオラ(2小節の中に3つの2拍子)と感ずることはあっても、後半の4小節は伴奏と共に3拍子を確定させていることから、直感的に「3」拍子を答えることができた¹⁰と推察できる。なお「分析・考察」¹⁰では、通過しなかった理由として、「拍の流れを一定のまとまりとして正しくとらえることができなかった」「拍子記号の理解が不十分であった」の2点を挙げている。

7. 《Der Lindenbaum》歌詞に見る3拍子

図5は、Franz Schubertが1827年に作曲した『冬の旅』第5曲目《菩提樹》のドイツ語歌詞¹¹である。詩に内在されたリズムが、冒頭2小節を除き「① 2 ③ | ① 2 3 | ① 2 ③ | ① 2 3」で構成されている。「歌曲の場合には、韻文詩に音楽がつけられるのだから、その場合の

《Der Lindenbaum》 Wilhelm Müller(1824)			
Am <u>Brun</u> -nen vor dem <u>To</u> -re da <u>steht</u> ein <u>Lin</u> -den- <u>baum</u> :	(3) ① _ _ _ 2 _ _ _ 3 _	① 2 3	① _ _ _ 2 _ _ _ ③ _ _ _ ① 2 _ _ 3
ich <u>träumt</u> in <u>sei</u> -nem <u>Schat</u> -ten so <u>man</u> -chen <u>süs</u> -sen <u>Traum</u> ,	(3) ① _ _ _ 2 _ _ _ ③ _	① 2 3	① _ _ _ 2 _ _ _ ③ _ _ _ ① 2 _ _ 3
Ich <u>schnitt</u> in <u>sei</u> -ne <u>Rin</u> -de so <u>man</u> -ches <u>lie</u> -be <u>Wort</u> :	(3) ① _ _ _ 2 _ _ _ ③ _	① 2 3	① _ _ _ 2 _ _ _ ③ _ _ _ ① 2 _ _ 3
Es <u>Zog</u> in <u>Freud</u> und <u>Lei</u> -de zu <u>ihm</u> mich <u>im</u> -mer <u>fort</u> .	(3) ① _ _ _ 2 _ _ _ ③ _	① 2 3	1 _ _ _ 2 _ _ _ ③ _ _ _ ① 2 _ _ 3

図5 《Der Lindenbaum》(菩提樹)のドイツ語歌詞

⁹ 同、音源DVDは付属資料で視聴可能である。

¹⁰ 同、pp. 30-31

¹¹ 作詞者のミューラー(1794-1827)と、《か

っこう》の作詞者ファルスレーベン(1798-1874)はいずれもドイツ人であるが、作曲者のシューベルト(1798-1827)と共に、ほぼ同じ時期に生まれている。

Der Lindenbaum (菩提樹)



図6 《Der Lindenbaum》(菩提樹)の楽譜～1番のみ～

アクセントは韻文の韻律においてすでに考慮が払われて¹² いることから、言葉は音楽の拍子を支配しているとも言える。

もう一点注目すべきは、歌の2番以降もほぼ同様に3拍目の言葉にもアクセントが置かれ、詩と歌曲(Lied)に躍動感を与えていると考えられることにある。

図6は、《菩提樹》の譜例であるが、小節番号：4, 8, 12, 16に、それぞれ2分音符が置かれ、共通教材《冬げしき》《ふるさと》と全く同じ音符の配置であることは興味深い。

8. 強拍を外して作られた楽曲例

図7は、歌劇『魔笛』の第Ⅱ幕の終曲直前に3人の子供たちによって歌われる6/8拍子の三重唱である¹³。

6/8拍子は通常第1拍にアクセントが置かれ、「① 2 3 4 5 6」のように伴奏が形成される。この曲でも伴奏は定型を守っているの

だが、歌詞の音韻律は大きく異なっている。

図8(譜例)の16小節中、定型は8小節目1ヶ所のみである。1拍目と4拍目にアクセントが置かれている「①23④56」は2・4・12・16小節目の4ヶ所である。残り11小節は1拍目にアクセントが置かれていないばかりか、いわゆる2拍子の裏拍にアクセントが置かれる「123④56」が6か所もある。加えて弱拍の2拍目にアクセントが置かれる「1②3④56」が3か所、「1②3456」が2か所ある。そして、譜例の18小節目は、「1②3④56」。20小節目は「①23④56」である。

6/8拍子は3拍子2つの集まり(=2拍子)であるが、3拍子で1拍目にアクセントがなく、弱拍の2拍目にアクセントを置くのは舞曲的・器乐的な要素が感じられる。ドイツ語の歌詞に含まれるアクセントは拍子の強拍と一致するという音韻律かの常識からすれば、モーツァルト最晩年のこの曲はまさに破天荒

¹² 前掲書『音楽と言葉』pp. 117-118

¹³ 筆者は、歌劇『魔笛』全幕公演を2012年、2014年、2017年の3回にわたって指揮する機

会があり、この曲のレントラー舞曲風な音韻律に関心を持っていた。

《Seid uns zum zweiten Mal willkommen》

Die Zauberflöte, K.620(1791) Nr.16 Terzetto (Die drei Knaben)

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791)

Libretto : Emanuel Schikaneder(1751-1812)

Seid uns zum zwei - ten Mal - will-kom-men,
 1 2 3 ④ 5 6 | ① 2 3 ④ 5 (6)
 Ihr Män-ner, i - n Sa - ra - stros Reich !
 1 ② 3 4 5 6 | ① 2 3 ④ 5 (6)
 Er schickt, was man - euch ab - ge - nom-men,
 1 ② 3 ④ 5 6 | 1 2 3 ④ 5 (6)
 Die Flö-te und - die Glöck-chen euch .
 1 ② 3 4 5 6 | ① 2 3 4 5 (6)
 Wollt ihr die Spei - sen nicht ver-schmähen,
 1 2 3 ④ 5 6 | 1 2 3 ④ 5 (6)
 so es-set, trin - ket froh da - von - !
 1 ② 3 ④ 5 6 | ① 2 3 ④ 5 (6)
 Wenn wir zum drit - ten Mal - uns se-hen,
 1 2 3 ④ 5 6 | 1 2 3 ④ 5 (6)
 Ist Freu-de eu - res Mu - tes Lohn . usw.
 1 ② 3 ④ 5 6 | ① 2 3 ④ 5 (6)

図 7 歌劇『魔笛』の三重唱（8分の6拍子）

Sechzehnter Auftritt Nr.16 Terzetto (Drei Knaben)

Allegretto

Seid uns zum zwei - ten Mal willkommen ihr Männer, in Sa ra - stros Reich!

Er schickt, was man euch ab - genommen, die Flo - te und die Glöck - chen euch.

Wollt ihr die Spei - oh davon.

Wenn wir zum drit - ten Mal uns se - hen, ist Freude eu - res Mu - tes Lohn.

Ta - mi - no, Mut! Nah ist das Ziel.

図 8 歌劇『魔笛』三重唱（譜例）

と言える。しかしながら、気品と美しさを保ちつつ約3時間の歌劇、最終20分余りに演奏されるのである。

9. まとめ

ドイツ語の歌詞による《かつこう》は歌詞が持つアクセントと3拍子の旋律のアクセントが各小節の中で一致していた。さらに《菩提樹》では3拍目にも言葉のアクセントが加えられることで曲を魅力あるものにしていく。

時代は少し遡るがモーツァルトは拍子から旋律を解き放つことを考えた。ピアノを弾く左手は拍子を厳格に取り、旋律を弾く右手は全く別人格、自由であろうとした。ここにヒントを得て、日本語の《かつこう》を音数律と文節から捉え直してみる。

かつこう かつこう しずかに

よんでるよ きりのなか

ほうら ほうら かあさん

音数律では、「3, 3, 4/5, 5/3, 3, 4」となる。さらに、意味の最小単位である文節で分けるとアンダーラインを引いた「きりのなか」が、「きりの／なか」(5=3+2)となり、リズムが細分化される。語句の唱法は、従来、第1音節を強調したり語頭を立てたりする方法が試みられてきたけれども、不自然さをぬぐえなかった¹⁴。経験からではあるが、自然に発語するために体(両手)の動きを使うことを提案したい。

両手を胸の位置から押し出し、戻して行く往復運動である。両手のひらは押し出すときは向こう側に向けて、戻すときは自分の方に向ける。これを文節に合わせて

て行う。当然、均等な速度や長さでの往復運動にはらない。

発語と同時に両手の方向を意識して機敏に変えようとすることで、脳に刺激がもたらされ明瞭な言葉の切り替えができるのではないかと考えるのである。実際これまで多くの教員を対象にした研修会で紹介している。

- ・歌詞の文節に合わせて手を動かす方法は、子供でも簡単に組み入れる上に、息遣いや言葉のまとまりを分かりやすくつかむことができました。(複数)
- ・言葉とメロディと拍の違いに改めて気づかされました。
- ・歌唱を扱うときの指導方法では、手を使って文節で歌うことがとても印象に残りました。
- ・日本語の歌詞なので、言葉の自然なイントネーションも意識する必要があるということが実際にやってみるとよく分かりました。

等の感想が寄せられている¹⁵。

小学校共通教材24曲中、3拍子の曲は4曲だが、それぞれについて音数律と文節例を紹介する。歌詞を文節で分けると、作詞者の工夫がまた違った形で見えてくる。

《うみ》 1年 音数律：七五調

1 番：3+4, 5 | 3+4, 2+3 |

2 番：3+4, 3+2 | 3+4, 5 |

3 番：3+4, 5 | 7, 3+2 |

*1～3 番まで文節の構成がすべて違う(アンダーライン部参照)。「いつてみたいな」の7音と最後の「(よその) くに」の(3)+2音が全体を引き締め効果的である。

¹⁴ 前掲書、大賀寛 p.75

¹⁵ 2017.9.5、愛知県岡崎市教育研究大会

3 拍子の指導についての一考察

《冬げしき》 5 年 音数律：六五調

1 番：3+3, 5|3+3, 3+2|2+5, 3+2|3+3, 3+2|

2 番：3+3, 2+3|3+3, 3+2|2+5, 5 |6 , 3+2|

3 番：3+3, 3+2|3+3, 2+3|2+5, 5 |6 , 3+2|

*やはり文節の構成はすべて異なる。3 段目の盛り上がり方が 5 音の大きな動きに集約される。

《おぼろ月夜》 6 年 音数律：八六調

1 番：8, 3+3|4+4, 3+3|4+4, 3+3|4+4, 3+3|

2 番：4+4, 3+3|4+4, 3+3|4+4, 3+3|4+4, 6|

*最初と最後だけが違うだけだが、長いフレーズ「なのはなばたけに」で始まり、長いフレーズ「おぼろづきよ」で終わる。

《ふるさと》 6 年 音数律：六四調

1 番：3+3, 2+2|3+3, 2+2|3+3, 4 |6, 4|

2 番：3+3, 4 |6 , 4 |3+3, 4 |6 , 4|

3 番：6 , 4 |3+3, 4 |3+3, 4 |3+3, 4|

*2 番では、1・2 段目が長いフレーズとなり、3 番では最初の「こころざしを」が長いフレーズとなるが、以下、「3+3, 4」のフレーズが 3 回連続して畳み掛けるように曲を盛り上げる。

以上、見てきたように文節で歌詞をとらえ直すことで、同じ音数律が並んでいるように見える曲も、実は多彩なリズム(律)を孕んでいるばかりでなく、歌い進めるにしたがってドラマが展開される作詞家の工夫があると考えられる。

3 拍子をはじめ拍子感覚の獲得は、伴奏の音の動きの中に求めることが、子供たちにとって最も早道であり、もともとがドイツ語や英語などの曲は、原語による鑑賞活動も効果的である

と考えられる。

最後に、日本語を見事に英語に翻訳した曲例を紹介する。木下順二作、團伊玖磨作曲、歌劇『夕鶴』である¹⁶。訳者は Dorothy G. Britton (ドロシー・ブリットン) 『窓際のトットちゃん』の英訳でも有名な女性である。主役「つう」が歌うアリア《私の大事な与ひょう》は 124 小節。その中に終助詞「(どうすればいい) の」「(来たの) よ」や格助詞「から」「で」等々で引き延ばされる拍頭が 13 ヶ所もある。英語では有り得ないことである。ここに、one, wife, happy, pain などさまざまな語を木下順二の台本や團の音楽と睨み合わせながら投入している。

T. G. ゲオルギアーデスが掲げたテーマ

“Musik und Sprache” 『音楽と言語』にもあるように、今後も音楽と日本語の関係性に着目して音楽科の指導改善の方途を求めて研究を進めたい。

引用文献

大賀寛(2003)『美しい日本語を歌う』 カワイ 出版

国立教育政策研究所教育課程研究センター
(2010)「特定の課題に関する調査(音楽) 調査結果(小学校・中学校)

小林純一(1911=1982)訳詞『かつこう』(ドイツ民謡)

小原光一・飯沼信義・浦田健次郎監修(2014)『小学生の音楽 2』pp. 10-17 教育芸術社
同：新見徳英監修(2014)『音楽のおくりもの 2』p. 22 教育出版

¹⁶ 筆者は、2015 年に歌劇『夕鶴』全曲公演を指揮。團との共同作業の英訳は作品理解に大い

に役立った。

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説
音楽編』

文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説
音楽編』

T. G. ゲオルギアードス著・木村敏訳(1966)『音
楽と言葉』音楽之友社

WOLFGANG AMADEUS MOZART(1970)Nr. 16
Terzetto *DIE ZAUBERFLÖTE* pp. 236-238
Neue Ausgabe sämtlicher Werke Serie
II : Bühnenerwerke WERKGRUPPE 5: OPERN UND
SINGSPIELE AND 19: Bärenreiter Verlag

SCHUBERT(1827)/MÜLLER(1823)/(1967)「菩提
樹」*DER LINDENBAUM WINTERREISE* p. 21-

22 音楽之友社

参考文献

浅香淳 (1966)『標準音楽辞典』音楽之友社

木下順二・團伊玖磨・DOROTHY G. BRITTON 英
訳(1976)歌劇『夕鶴』*The twilight*
heron pp. 71-79 全音楽譜出版社

DON MICHAEL RANDEL (2003) *The Harvard*
Dictionary of Music FOURTH EDITION